令和元年7月長浜市教育委員会定例会 会議録

I. 開催事項

1. 開催日時

令和元年7月25日(木) 午後1時30分～午後3時5分

2. 開催場所

教育委員会室(長浜市八幡東町632番地 長浜市役所5階)

3. 出席者

教育長	板山 英信
委員	井関 真弓(教育長職務代理者)
委員	西橋 義仁
委員	廣田 光前
委員	美濃部俊裕
委員	宮本 麻里

4. 欠席者

なし

5. 出席事務局職員

教育部長	米田幸子
次長兼教育総務課長事務取扱	岩田健
次長	横尾博邦
教育改革推進室長	土田康巳
教育指導課長	伊藤浩行
すこやか教育推進課長兼学校給食室長	大田久衛
幼児課長	大音洋
教育センター所長	野村幸弘
教育指導課副参事	河瀬洋子
教育総務課長代理	今井健剛
教育総務課主幹	西川洋輔

6. 傍聴者

5人

II. 会議次第

1. 開 会

2. 議 事

- 日程第 1 会議録署名委員指名
- 日程第 2 会議録の承認
- 日程第 3 教育長の報告
- 日程第 4 議案審議
- 日程第 5 協議・報告事項
- 日程第 6 その他

3. 閉 会

Ⅲ. 議事の概要

1. 開 会

教育長から開会宣言があった。

2. 会議録署名委員指名

美濃部委員、宮本委員

3. 会議録の承認

6月定例会

特に指摘事項はなく、6月定例会の会議録は承認された。

4. 教育長の報告

教育長：日程第3、教育長の報告でございます。

5月、6月と小・中学校の学校訪問を実施しました。現在は公立園の訪問が終了しまして、市内の民間園の訪問をしており、あと二、三園を残すのみという状況でございます。

大津市で発生した痛ましい事故を受けまして、各園とも子どもたちの安全管理につきましましては、神経を使っているという印象を受けました。また、職員管理については、人を育てるという視点で活動されている園や、みんなが気持ちよく仲良く働ければいいという園など、園によって経営方針にさまざまな違いが出てきていると感じました。

今回の訪問で、各園には「専門店」を目指していただきたいとお願いしているところです。園の立地条件や周囲の環境にはさまざまな違いがあります。そういった特性を生かして、「私の園はこれに力を入れています」ということを明確に出していただけるような園経営をお願いしたいという話をしました。

例えば、長浜幼稚園とよご認定こども園を比べてみると、周囲の環境は全然違います。共通してやるべきことはもちろんあるが、やり方はそれぞれの園の特性を生かして工夫をしていただきたいということです。

特別支援教育を含めた就学指導についても、今回は重点的にお話をさせてい

ただきました。

小学校就学を見通して、特性に応じて子どもたちを伸ばしていただき、子どもたちが持っている意見を明確にさせていただきたいと思います。就学先等についてはあくまでも保護者の方が最終的にご判断されることとなりますが、それまでに一番子どもたちの学びや成長の度合いを見ているのは園です。ですから、園の先生方はもっと自信を持って、就学指導に携わっていただきたいということも重ねてお願いをしているところでございます。

次に、最先端の学びのツールを子どもたちが体験することができる長浜青年会議所主催事業である「Vision16 Go To the Future!! ～未来への扉をひらこう!!～」が、びわのリュートプラザで開催されましたので、参加してきました。

非常に印象的だったのは、各体験には終了時間が決められていますが、子どもたちがやめようとしなないという光景をほとんどのブースで目にしたことです。子どもたちの興味、関心と、現代の育ちの場に合った教育のツールがこういうところにあると思いました。

現在進行しておりますICTの整備計画等も含めて、長浜市の教育環境の整備に努めていきたいと考えております。

5. 議案審議

「議案第 25 号 議会の議決を経るべき教育関係議案について」は、市議会で審議される前の情報であり、公にすることにより市民等の間に混乱を招くおそれがあることから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 7 項の規定に基づき非公開としたい旨の発議が教育長よりあり、委員の全会一致で可決された。

また、非公開の案件を最後に提案することとし、議案第 26 号から 28 号までを先に一括提案・審議することとなった。

議案第 26 号 令和 2 年度小学校各教科用図書の採択について

議案第 27 号 令和 2 年度小学校特別支援学級各教科用一般図書の採択について

議案第 28 号 令和 2 年度中学校において使用する「特別の教科 道徳」を除く教科用図書の採択について

教育長は事務局に説明を求め、教育指導課長から資料に基づき説明があった。

主な質疑応答は以下のとおり

井関委員：QRコードが付くなど、いろいろな点で改善されていることで、これからICT教育を進めていくことが長浜市においても大事な課題の一つであるということを感じました。

もう一つは、主体的で対話のある深い学びということで、先生方もこれから授業をどのように作っていくかが大切だと思います。

子どもたちが興味を持って主体的に学ぶことや、読み解く力を身に付けるこ

となど、どのようにこの教科書を使って進めていくかというのもこれからの課題かと思えます。

今回の教科書選定につきましては、文字の大きさであるとか、写真の見やすさであるとか、そういう使いやすさも含めて公正かつ慎重な審議をもって保護者の方々もお考えいただいたと聞いております。特に英語ですけれども、新しく教科になりましたが、指導するにあたって子どもたちが英語嫌いにならないように、小学校から中学校へのつながりがうまくできるといいなと感じました。

教育指導課長：授業づくりについてのご意見は、学校現場に伝えていかなければならない貴重な意見だと思っております。

英語につきましては、初めて導入されるというところを非常に重要視されたということで、採択協議会でも意見が出ておりました。

美濃部委員：新しい教科書の選定は非常に大変だと思うのですが、教科書会社のいろいろな工夫があつて、教師に対する配慮といいますか、ヒントを与えてもらえるような工夫がされているものを選んでおかれるので、よかったなと思えます。

また、保護者との連携というのも実際にはなかなかできないですが、地域の方とか保護者の考え方の推移、そういうものがあると思いますので、有効に使っていただいて、子どもたちの指導に役立てていただけるといいなと思えました。

西橋委員：いろんな人の目から見て、完璧な教科書というのはあり得ないと私は思っています。いくつかある中で、一生懸命検討されて、ベストなものを選んでいただいたと思っております。

これからこの教科書が現場へおりたときに、先生方がどう対応していくかというのが一番大事なことで、中には戸惑われる先生も出てくるのではないかなと思っております。それを解決する一つの方法として、教師の指導書は、たとえば授業時数が少なくても、その教科を担当される先生方全てに配付されるべきだと思います。読みたいときに読めて、工夫したいときに工夫ができるよう、配慮をしていただけるとありがたいというのが1点です。

それから、各市の保護者の代表の方が委員に選ばれて一緒に協議していただいたと思うのですが、ここ数年、保護者の方の人数が増えてきているのでしょうか。説明されている中でいろんな質問が出てくると思うのですが、特に保護者の中からどのような声が出ていたかというのを教えていただきたいです。

教育指導課副参事：採択協議会の規定の中で、保護者の方を6名含むという形で定められておりますので、今後もこの形で進めさせていただくことになるかと考えております。

また、今回の採択協議会の中で保護者の代表の方から、いろいろとご質問をいただきました。例えば、先ほどから話が出ております英語科についてですが、子どもたちが興味を持って、誰ひとり嫌いになることなく進めていけるかとい

う視点で見てくださいまして、単語等は非常に難しいものが入っているのですが、楽しく授業に入っていけそうだというご意見を頂戴しております。あと、生活科のポケット図鑑等につきましても、よい工夫ですねというご意見を頂戴しました。

指導書につきましては、今年度の予算要求の中で、学級数分はしっかりと要求をさせていただきます。これまでの実績からも担任の先生のクラス分は保障されていたと思います。

教育長：恐らく保護者の代表の方は、採択に関わったことは初めてかと思います。会議が終了した後も、事務局の職員に質問しながら教科書の見本を熱心に見ておられる方が何人もおられました。これが非常に私の印象に残っています。

もう一点は、教師としての視点ではなくて母親としての視点です。大きさですとか、重さですとか、広げたときのインパクトがある写真とか、そういったところを見られてのご意見も貴重なものだったと思います。

教科書が重いというのは、社会的な話題になったことがありますけれど、そういったことに非常に関心を向けていただいているというのが印象に残った点でございます。

宮本委員：今教育長が言ってくださったように、子どもたちは月曜日本当に荷物が多くて、母親としては両手からいろんなものをぶら下げてかわいそうだなと思うのですが、特に1年生とか2年生のものはシンプルにまとめてくださって、持っていきやすいなと思いました。

自分が使っていたときの教科書と比べると、全体的にわくわくするようなものであって、子どもたちも好んで見る中身だと思いました。そのわくわくするという延長で主体的にいろんなことができるようになるのではないかと思います。ただ知識として学ぶだけではなく、その後に自分で考えたり、お友達の話聞く機会があったり、そういうことが小学校の中で学んでほしい、身につけてほしい力だと思っていたので、これから楽しみだなと思いました。

あとは保護者として、例えば道德ですと、今いじめを含めていろんな問題があって、親としてどう子どもに教えてあげたらいいか、どう関わっていいのかわからないところがあるのですが、親が見ても勉強になるものだし、この保護者欄というのがあることで、学校から帰ってきた子どもと一緒に話せて、家族で生活のことについて考えるということがしやすい教科書であり、とてもありがたいなと思いました。

横尾次長：保護者の委員が、母親目線で考えておられると感じましたし、こんな仕組みで教科書が選ばれているのだということに感心されていて、ほかの保護者にもしっかり広げていかないといけないとおっしゃっていただきました。

廣田委員：私が目についたのは理科です。いろいろな出来事が掲載されており、外に出て行かなくても、教科書を見れば大体わかるのではと思いました。

化石や天文のことも書いてありました。これを利用して人間性を広げてくれ

ればと思います。今いじめ問題等いろいろありますが、教科書を通して子どもたちが視野を広げ、心が豊かになればよいと思います。

その他に意見はなく、各委員とも異議なしということで、原案どおり採択することに決定された。

議案第 25 号 議会の議決を経るべき教育関係議案について（会議非公開）

教育長は事務局に説明を求め、関係所属長から資料に基づき説明があった。特に意見はなく、各委員とも異議なしということで原案どおり同意された。

6. 協議・報告事項

- (1) 令和元年度教育委員会事務評価委員会委員の委嘱について
教育総務課長から資料に基づき説明があった。

7. その他

井関委員：小学校にプログラミングの勉強が入るということですが、このプログラミングは、どの授業の中でやっておられるのか、また、パソコン教室での授業は、どの教科を使ってされているのかを教えてくださいたいと思います。

教育指導課長：明確な決まりはなく、学校の教育課程の中で任されているところです。自由度がありますが、普及しない心配もありますので、本市としては今年度6年生の理科の1単元におきまして、実施する機会を設定しております。

市内の全6年担任を対象としたプログラミング学習の研修を行い、実際の授業での活用を今年度中に先行実施し、いろんな教科に広がっていけばと考えているところです。理科や総合学習が中心になっていくと思われま。

パソコン教室につきましては、全ての教科で使用可能です。使いたいときに使いたい単元で積極的に使っていきたいと考えています。

井関委員：長浜市としては年間の学習の中でどれぐらいの時間を使うというような基準はないのでしょうか。

教育指導課長：基準は特にございません。教育課程は各学校で学校長の権限のもとと定めているところがあり、学校ごとに特色の出るものでございます。

子どもたちが実際にプログラミングなどを経験できるようにしないとイケないと思いますので、学校の負担にならない範囲で研修等を進めていきたいと思

西橋委員：7月31日に「未来をになう長浜っ子」育成プロジェクト第1回懇話会が開催されますが、今後の見通しを教えてください。

教育指導課長：現場教員から出ていただいている代表のワーキングと、懇話会との両輪という形で思っております。

現在子どもたちにどんな力が必要かという話し合いをワーキングでしていた

だいているのですが、現状も見ながら、どういった力をつけていくことが将来にとってよいものであるかということを含めていき、次の大きな計画につなげていければと思っております。

長浜の教育について、全体的にバランスをとって体系化し、わかりやすく示せるものをつくっていきたいという思いもありますので、外部の方のご意見を率直に受けながら、子どもたちにとってよりよいものを3年間のスパンでつくり上げていくという見通しでございます。

横尾次長：これまでやってきた長浜の教育をもう一度いろんな視点から見ていただいてご意見をいただきたいと思っております。そこには現場の先生方の生の声もいただきたいし、教育関係以外の方からも違う視点でご意見をいただいて、学力とか教育について見直し、最終的に第3期の振興計画にも結びつけていければいいなという、大きなビジョンの中で今スタートしたところです。

西橋委員：最終目標としては、振興計画にいかに関係するかということですか。

横尾次長：どこまで反映できるかわかりませんが、あくまで懇話会ですので、発言力もございませんし、ご意見をいただくというのが基本スタンスです。

教育長：シナリオありきのワーキングチームと懇話会にはしたくありません。ワーキングは、現場の若い先生が中心です。いろいろ考えて、懇話会の委員さんを説得してほしいです。懇話会の委員の皆さんと意見をぶつけ合っていたきたい。個人の意見だけではなくて、いろんな先生や、できれば保護者の方のご意見も集めてきて持ち込んでほしいと思っております。

やはり教育委員会でもしくは現場だけで考えていてもだめだと思っております。時間をかけるところはしっかりかけて取り組んでいただきたいという願いをしております。

西橋委員：この懇話会は教育関係者以外の方も多いですか。

教育長：教育関係者以外の方が多いです。

西橋委員：それはものすごくいい試みだと思っております。先生だけで話し合っても、なかなかその枠が打ち破れないという部分がありますけれども、全く教育に携わっておられない方と、教育現場において第一線でやっている人の意見を闘わせるというのは非常に意味があることだと思っております。特に現場の先生方にとって良い勉強になることを期待しております。

教育長：現場の先生が本当にいいと思ったら、委員の皆さんを説得してほしいです。説得もできないようなものはだめだという強い思いで進めていただけたら一番いいと思っております。

彼らが今後の長浜の小・中学校の教育の中核になっていくと思っております。これを機会に、そういう人材も育てていただければと思っております。

会議は傍聴できるのですか。

教育指導課長：ワーキングについては、公開は今のところ考えておりません。随時ホームページで情報提供させていただいております。

教育長：会議の様子を教育委員の皆さんにもお知らせするようなことを今後考えてください。

西橋委員：ずばずばと物を言ってもらうことはものすごく意味があることで、先生方にとっても非常にいい勉強になりますね。

教育長：また折々に、現状をご報告いたしますが、今後は、懇親会や教育委員の皆さんや事務局の職員と意見を交わすような機会があってもいいと思いました。

懇話会のメンバーは、たくさん意見をお持ちのようでした。活発な意見交換を期待しています。

7. 閉会

教育長から閉会宣言があった。